

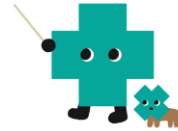


北海道医療センターには28の診療科があります。その中で活躍する様々な診療科・診療部門が今取り組んでいる課題や最新の医療知識などをご紹介します。



【呼吸器内科】

高齢者の合併症にご用心！ 結核の「いま」に迫る



北海道医療センター呼吸器内科では、肺癌、気管支喘息、COPD、間質性肺炎、呼吸不全、呼吸器感染症などの診療を行っておりますが、その他に特に抗酸菌感染症(主に結核と非結核性抗酸菌症)の診療にも力を入れて対応しております。

ここ数年、結核患者は総数として微減を続けていますが、依然として年間20,000人以上が新しく罹患し、約2,000人が死亡する病気です。そこで今回は、連携先の病院のみなさまに特にお伝えしたい情報を中心にご紹介します。

結核は今も現役の病気～高齢患者の合併症～

我が国全体として患者数は減少しておりますが、70代以上の高齢患者はむしろ増加の傾向にあります。結核菌に感染しても、免疫力・体力により活動を抑制し、発病するには至りませんが、加齢に伴う体力の低下、あるいは糖尿病や腎疾患・肝臓疾患など、**他の病気による免疫機能の低下が起こった時に、これまでの「重石」がとれて結核菌が活動する状態、いわゆる内因性再燃により結核を発病する方が多いこと**が原因と考えられます。

また、高齢患者の増加に伴い、様々な合併症を有している方が増えております。

合併症でも安心！北海道医療センターの結核対応

結核専門病床50床を有し、28の診療科のある当院では、合併症をお持ちの患者様の場合でも、他科のドクターと連携した総合的・最適な体制での治療が可能です。

◇抗結核薬の代表的な副作用、薬疹は皮膚科専門医が対応致します。

◇高齢患者でしばしば問題となる認知症などの症状については精神科専門医が対応致します。

なお、結核専門医療機関で精神科が併設されている環境は全国的にも極めて珍しいとされています。

地域連携病院のみなさまへのお願い～おや？と思った時は、痰の検査から！

ご高齢の患者様の原因不明の倦怠感や体重減少などが見られた場合は、結核の可能性も考慮し、**胸部レントゲン写真及び喀痰検査**を行った上で、事前に下記専門医又は、当院地域医療連携室にご相談いただけますようお願いいたします。

column：近年増加中の「非結核性抗酸菌症」について

近頃、結核菌以外の抗酸菌(非結核性抗酸菌)による、「非結核性抗酸菌症」の患者様が増加しています。この病気の特長は、①無症状のことも多く、気付きにくい ②人から人への感染は希で、水や土などの環境からの感染が多い ③根治薬がなく、完治しづらい ④治す病気ではなく症状を抑えて「うまくつきあって」いく疾患 であることが挙げられます。罹患していることが分かった場合は、患者様の年齢や合併症の有無などから総合的に判断して治療を続けることになります。もし、貴院の患者様に「原因不明の倦怠感、体重減少、咳などが長引いて治らない」などの症状の方がいらっしゃった場合は、一度痰の検査を行って頂くことをおすすめします。

【呼吸器内科 結核専門医師】

氏名・職名	主な専門分野
鎌田 有珠 【写真右】 (コンプライアンス統括部長)	肺結核、肺非結核性抗酸菌症
網島 優 【写真左】 (医長)	肺結核、肺非結核性抗酸菌症、喘息 COPD、その他の呼吸器感染症

